



切磋琢磨

【発行日】平成29年11月18日

【発行者】角田高等学校

校長:鈴木 琢也

【連絡先】0224-63-3001

野球部が「21世紀枠」の宮城県推薦校に決定しました！！

宮城県高等学校野球連盟の選考委員会において、本校野球部が平成30年3月に甲子園球場で開催される「第90回選抜高等学校野球大会」の宮城県推薦校に選ばれました。

推薦理由は、①県下有数の伝統校として学業とスポーツを両立させていること、②部員18人という少人数でありながら秋季県大会で初のベスト4となったこと、③地域清掃や雪かき、阿武隈リバーサイドマラソン等における地域貢献が認められたものです。

今後12月上旬に東北地区での選考を経て、1月26日(金)に最終決定となります。

また、東日本放送で毎週土曜日朝9時30分から放映されている「宮城の高校生諸君 めざせ！頂点」から取材依頼があり、12月23日(土)に放映される予定となっています。

野球部の今後の活躍に期待するとともに、保護者の皆様にも応援をよろしくお願いいたします。



角田高校の良いところ

角田高校に着任して7か月半になりますが、本校ではたくさんの魅力ある取組を実践していると思います。しかし、その取組があまり地域で知られていないのではないかと感じます。

そこで、本校が実践している魅力ある取組を次の5つに整理してみました。

①幅広い進路希望に対応したカリキュラムの設置

平成28年度入学生から、進学重視型単位制高校となりましたが、そのメリットは大学進学から就職まで、多様な希望進路に対応できるよう選択の幅を広げたカリキュラムを設置できるところにあります。個に応じた学びを引き出し深めるための選択科目を充実させ、難関大学から民間就職まで、希望の進路を達成できるよう支援していきます。

②一人一人の面倒を丁寧に見る

学習指導、進路指導、部活動など、きめ細やかに生徒の面倒をよく見ていきます。

③学校らしい学校

のんびりとして恵まれた学習環境の下、落ち着いて勉強や部活動に取り組める学校です。学習だけでなく、部活動や定期戦などの行事にも取り組み、文武両道を実践していきます。

④様々な国際交流事業の取組

アメリカデラウェア州ドーバー高校との姉妹校締結による短期交換留学をはじめ、アメリカグリーンフィールド市の中高生との交流や留学生を招いての国際理解活動など、国際交流事業に力を入れています。

⑤地域との連携

総合的な学習の時間では、地域商店街調査や職場体験を通じた課題研究など、地域と連携した志教育を実践しています。また、各部活動を中心とした地域行事でのボランティア活動や、小中学校と連携した挨拶運動や地域行事への参加などに取り組んでいます。

これらの魅力ある取組を地域に発信して、角田高校の良さをPRしてまいります。

第30回阿武隈リバーサイドマラソンに参加しました！

平成29年11月5日(日)、第30回リバーサイドマラソンが開催されました。

日ごろ生徒には、挑戦することを大切にするよう話していますので、私も一念奮起して5kmの部に初めて参加し、無事完走証をいただきました。

朝から気温は低めでしたが、スタート地点となっている角田市陸上競技場の駐車場に着くと1時間前にも関わらず既に沢山の車が駐まっており、中には県外ナンバーの車も見られました。秋晴れの清々しい天候の下、大勢のランナーの皆さんと走るのはとても気持ち良く感じました。



＜吹奏楽部の演奏に励まされました＞

会場では、本校吹奏楽部の演奏が選手を応援し、陸上部、サッカー部の生徒達が選手招集係、誘導係、参加者へのいも煮の配膳係等にボランティアとして参加していました。

●特別寄稿 その3 「ボランティアのすすめ」 教諭 昼間美保

ボランティアといえば、私には忘れられない思い出がある。

私は角田高校に赴任する前まで、生まれ育った宮城県多賀城市で生活していた。東日本大震災が発生した当時は、私はまだ学生だった。幸いにも実家は津波で被災することはなかったが、慣れ親しんだ公園、病院、店、通っていた自動車学校…沢山の思い出が流されてしまった。思い出の場所の変わり果てた姿に、本当に胸が苦しかった。そこで、自分に何か出来ることはないかと思い、多賀城市の社会福祉協議会を通じてボランティアをすることにした。

市でまず必要とされたのは、「泥かきボランティア」だった。津波で被災した家を訪問し、家の片付けを手伝うというものである。ただ泥かきといっても、海水に浸った畳を持ち上げることはかなりの重労働だった。しばらくしてから、外国人の方がボランティアをしに来るようになった。そこで新たに市で必要とされたのは、「通訳ボランティア」だった。ボランティアセンターに来た外国人の方に向けて、活動の内容や注意点を英語で伝えるというものである。震災の混沌のなか、役所の方が全ての指示を行える状況ではなかったため、英語を専攻していた私はそのような役割を引き受けることとなった。正直力になったのかどうかは分からないし、まさかこのタイミングで自分の学んでいたことを使うとは思わなかった。私にできることはほんの僅かなことだったが、助けになりたいと思う外国人の方と被災者の方を少しでも繋ぐことができた経験は、本当に貴重なものだったと思う。

あれから7年が経とうとしている。私は角田高校の教員となり、今年は生徒指導部のボランティア担当となった。各部活動でのボランティアをはじめ、夏休み中のNPO夏ボラ体験や、角田支援学校でのボランティア等、今年も多くの生徒が活動してくれた。私にとってボランティアといえば、やはり震災当時のこの経験が思い出されるのである。何かできることはないかと思いきやドキドキしながら役所を訪れたこと、被災した方に「ありがとう」と言われたこと、英語が通じたこと、役所の方々が休まずに働いていたこと、海外からもたくさんの方が活動しに来ていたこと。この経験は多くのことを教えてくれた。勇気を出して行動すれば、自分が思っているよりも得られることはたくさんあるのかもしれない。